

幹線道路の施設及改良促進に就て



陸軍少將 廣瀬 壽助

我國の交通が年を逐うて進歩發達することは誠に結構なことである然し交通網の最も重要な要素であり鐵道航路水路等と相俟つて重要な交通幹線をなす道路に就て我國の現情を觀察するに近時當局の努力により局地的には京濱阪神國道の如き立派な道路を見得る様になつたけれども遺憾ながら起點から終點迄一貫して良好な發達を遂げた幹線道路を發見する事は容易でないやうである。申す迄もなく幹線道路は起點から終點迄一貫して居て始めて幹線としての價値があるので局地的に發達したものは其局地の道路としての價値に過ぎないこととなるのである。

田舎の道路を通過せられる人は相當に路幅を有する道路の途中に於て其幅員が路幅より狭く其

構造が極めて脆弱な橋梁を屢々目撃せらるゝことがあるであらう。斯様な道路は道路其の物は整つて居ても其の橋梁が許す範圍の利用しかなし得ず折角の道路も價值が著しく低下するのである。これは局地の利用に供せられる田舎道路の一例であるが幹線道路の何れかの部分が不良な時も亦同様で何處かの曲半徑が小さかつたり勾配が急であつたり或は排水が不十分で路面が泥濘となるやうな道路殊に幅の狭い脆弱な橋梁を有する道路は全體に互つて通過し得る交通機關の種類と速度とを制限するものである。從來世間的には勿論自らも亦大なる期待を有せず取引も極めて小範圍に限定せられて居た所謂山間の僻地も田舎の小市街も今や年々覺醒して文化の經濟生活を營まんとする傾向が顯著であり其の狀勢は潰河にも等しく其のポテンシャルに對しては年々發達して止まぬ鐵道船舶はもとより道路の改良も到底追及し得ないやうに思はれる。此等の地方を旅行せらるゝ人々は自動車中に於て屢々冷汗を覺え此等地方の幹線道路改良の緊急なるを感ぜられるであらう。

道路の改良事業が孜孜として行はるゝことは誠に多とし感謝に耐えない所であるが茲に申す迄もなく道路の改良發達と文化の向上及經濟の發達は密接不離の關係あるが故に地方の文化及經濟の發達に促され之に追隨せんとして焦慮するかやうな感じのある道路施設及改良事業の消極的現況を一日も速に脱して寧ろ常に一步進んで積極的に道路の施設及其改良に努め之によつて地方文化及經濟生活の發達を促進するやうになりたいものであると思ふ。之が爲めには先づ第一事業として幹線道路の施設改良を行ふことが必要である。樹の根幹が貧弱では枝葉は勿論繁らない。

幹線道路の完成を忘れて地方交通路の發達のみを企畫しても其れは改良施設せる地方交通路の價値を發揮せしむる所以ではないと思はれる——もとより地方の局地交通を忽にせよといふのではない。

二

交通幹線上を運行する交通機關を其の儘小運送にも利用して隨所に運び得るものは發達せる水路に臨む地方の船を除いては道路上の機關の外にはあるまい否水路の無い我國では之は一つに路上運搬機關の發達に俟たねばなるまい。自動車等の機關は鐵道船舶等の如き軌道航路上にのみ利用し得るものに比し交通上の自由を有し甚だ重視せられ其進歩は日を逐うて著しいものがある、即ち向後に於ける道路特に幹線道路の施設は各種自動車等の交通を便ならしむることを以て最小限度とすべきではあるまいか。かの著しく自動車の速度を低下し甚だしく慎重の運行をなすにあらざれば進退さへも困難なやうな設計の幹線道路は速に改良せらるべきであらう。胸を衝くやうな勾配、迂餘曲折する路線を改良し行人相摩し車輛相衝くやうな路幅を擴張し泥濘車輛を没するやうな路面を改修して交通を便易ならしめ交通時間を短縮することを圖るべきであつて四軸車輛を六軸とし或はカタペラを裝する等の如き不良な道路を通過する自動車を使用して交通改良とするが如きは必ずしも歓迎した事ではなからうと思ふ。

又茲に交通の整備といへば即ち鐵道の敷設改良であるといふやうな鐵道偏重の思想に陥つて居

るのではなからうかと感ぜられるものゝあることに就て附言したい。交通のあまり頻繁でない地方で一日僅かに四五回位より運行しないやうな短距離の鐵道を網の目のやうに敷設することは甚だ不經濟なことではあるまいか英國に於ても今日之に苦しんで居るものもあるといふことである。鐵道と道路とは自ら職域の異なる所もあり、鐵道は大幹線の完備を主とし小さな網の目のやうな鐵道敷設の力は寧ろ道路の施設に致すを得策とするやうに思ふ。

三

文化の向上、經濟の發展を企及促進せんが爲めに道路の改良を必要とすることに就ては夫と別に専門家があつて研究せられて居る事であるから茲に多言を費すことを止めて災變、戰時に對する顧慮上道路特に幹線道路の施設改良が必要であることに就て一言しやう。

兵學界の進歩、用兵資材の發達は其交通特に海運界の發達と相俟つて海上よりする敵國に對する侵入及其侵入を防禦する爲めに大なる威力と自由性とを與へ殊に航空機の進歩、航空方法の發達は空中よりする攻撃威力を絶大ならしめ被攻撃國の空中防禦に一大脅威を加へつゝあるやうである。萬一他國と戰爭を惹起するやうな事があつたならば到底筆紙に盡し能はざる慘害があるであらうと思はれるから國內防衛法を豫め完備し置くは勿論之に任ずる兵力も相當に必要とするであらう。然し我帝國の情勢より見て戰時國內防衛の兵力を節減することは御互の希望する所だらう。從てなし得べき補助手段を盡して防衛を助け防衛兵力の膨脹を避け得せしむる準備がなくてはなるま

い。之が爲めには火砲其他機械的威力の改善、進歩防禦施設の改良等幾多の手段があるであらうが道路を改良することも亦重要な一つの事項である。若し道路が發達改良せられて防禦機能の移動性を發揮することが出来たならば、或程度の威力を臨機所望の場所に移して隨時隨所に其の能力を利用し敵軍の企圖を挫折し得ることとなるから、獨り防禦に便宜を得るばかりでなく其の程度の兵力を節約し得るであらう。

又我國の物資の狀態から見て戰時には輸入貨の膨脹は勿論國內に於ける物資の融通運搬が平時以上に行はるゝこととなるであらうから鐵道は頗る多忙を極めるであらう。斯くの如き場合不幸にして萬一其の中樞機能たる大停車場を爆破せらるる様のことがあつたならば鐵道は茲に其活動力を制限せられ、又若し其軌道を破壊せらるゝことあらば列車運轉は不能に陥るのであつて常に必ずしも利用を期し得ない事情があることを覺悟せねばならない。殊に東海道線等の如きは此虞が大であるやうに思はれる。其等の場合に於ては交通運輸は道路を主とし或は道路上の交通機關を以てする鐵道補助を必要とするに至るであらう。

尙又日露戰爭以後累次經驗した我國の戰役は國軍の一部を以てせるに過ぎないが、萬一國を擧げて戰爭に従事せねばならないやうな事でも起り、男子の大部は勿論馬匹の多くも徵集せられて出征するやうな場合に於ては國內の運輸交通は益々多忙となり道路上の運輸機關は機械力を利用してなし得る限り小人員にて迅速なる運搬を行ふやうに留意せねばなるまい。即ち道路特に幹線道路が立派であることが先決問題となるやうに思ふ。

四

試みに道路の改良が如何に緊要であるかを物語る資料として過去に於ける戦例の二三を簡単に紹介し以て本文を攔くこととする。引例は戦地に於けるものであるが國內の物資運搬、人馬の交通が熾盛を極むるに至つた場合或は大都市が不時の災變に逢會したやうな場合等の爲めにも参考となるであらう。「治に居て亂を忘れず」との教訓に従ひ抽象的ながら本文が遠大なる研究、多大の経費及至大の努力を要する道路の施設並に改良促進の一助ともなれば幸甚である。

戦例其一。

千九百十四年八月歐洲西方戰場に於ける獨軍の例。

歐洲大戰開戦の初期獨軍約五十三師團の大軍が疾風迅雷的に白耳義を突破し續て日々約二十哩の速力を以て巴里郊外に殺倒した敏活な行動は主として鐵道によつたのである、けれども又自動車が軍需品の輸送を補助し以て作戦軍に著大な推進力を與へた結果であることは否み難い。而して之が運轉を可能ならしめたものは實に西歐地方の發達せる道路網である。

戦例其二。

日露戦役に於ける日本軍の例。

滿鮮の道路は極めて粗惡であつて降雨に際しては路面全く泥濘となり人馬車輛の通過困難を極め、甚しきは單獨の歩兵と雖も一時間に僅に一杆内外を行進し、縦列の如きは一車僅に三叭を積載して奮勵努力一日纔に二、三里を行進し得たに過ぎないことがあつて、軍の前

進路に給養上に非常な困難を加へた。
戦例其三。

千九百十六年「ヴェルダン」の防禦に於ける佛軍の例。

千九百十六年二月「ヴェルダン」の攻撃開始せらるゝや佛軍は日々消費する莫大な彈藥、糧秣を輸送するに到底鐵道のみでは其需要を充たすことが出来なかつた。茲に於て新に「パール、ヂュツク」を經る自動車補給路を定め多數の自動車を以て主として彈藥の輸送を行つた。三月中該道路を通過した自動車は毎十五秒に一臺を算したのである。「ヴェルダン」要塞が其の防禦を完うしたことは此自動車道に待つもの頗る多く佛著述家「ホール、ウーゼ」は之に神聖道路の名を附した。